

植民地支配からの回復を目指す、 カナダ先住民と馬の関係

ーホースセラピーと保護活動における互恵的なケアー

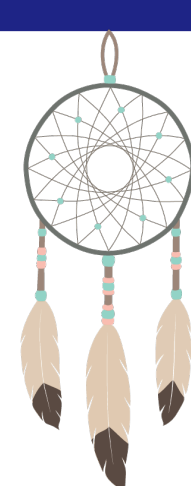
えのもと あゆみ
榎本 歩美

北海道大学 大学院 文学院
文化人類学研究室



未来社会のあるべきかたち

- ◆ 心と体の健康を保ち、取り戻す力を育む社会へ
- ◆ 動物や自然とのつながりを大切にし、多様な文化を継承



カナダ先住民

ヨーロッパ人の到来以前からカナダに居住していた人々で**ファースト・ネーションズ、メティス、イヌイット**の3つの大きなグループがある。630以上の多様な言語と特有の文化を持つ民族集団に分かれる。



(引用: Flickr)

先住民アニシナベの動物観

「良い人生」を送るには人間や自然、精霊の助けや協力と、適切な社会的行動が不可欠！

動物は人間の身体と精神のバランスを調整し、困難を乗り越える手助けをしてくれる存在



オジブウェ・スピリット・ホースと先住民

～1970年代

五大湖周辺地域の**先住民アニシナベ**と共生

春から秋は森や湖の島で暮らし、冬は荷物運びや罾かけを手伝う

自動車の普及、キリスト教宣教師の影響によって、残り4頭に…政府が殺処分命令を下すも、先住民が真冬の凍った湖を渡って馬を救出し、絶滅は免れる

先住民の絶え間ない努力により
約200頭まで回復

「馬も先住民だ！」
先住民の長老の言葉



(引用: Chosa 2013)



五大湖周辺地域 (引用: iStock)



オジブウェ・スピリット・ホース (筆者撮影)

- ❖ 先住民社会では植民地支配の抑圧と人種差別に起因する世代間トラウマ、貧困、暴力、依存症、自殺などが大きな問題
- ❖ 西洋の医療を援用しつつ、**先住民の文化やアイデンティティに根差した癒しの重要性**が指摘されている

私の研究

植民地支配の経験を共有する先住民アニシナベとオジブウェ・スピリット・ホースがお互いをケアする関係に着目。先住民の思想を基盤としたホースセラピーと保護活動を通して**先住民の文化と健康・馬の生態的な回復がどのように生じるのか**を明らかにする

馬の世話

- ・歌や優しい声かけ、アイコンタクトを大切に
したコミュニケーションが基本
- ・1週間に数日、ブッシュに馬を放牧する
- ・市販の飼料は与えず、草を食べる
自由にさせる世話の仕方が特徴！



↑ブッシュでの馬の様子



↑セラピーの様子

オープニングセレモニー

伝統的なテント（ティピ）の中で浄化の儀式の後、自己紹介とセラピー参加の目的をシェア、ソーシャルワーカーによる馬の歴史の話を聞く

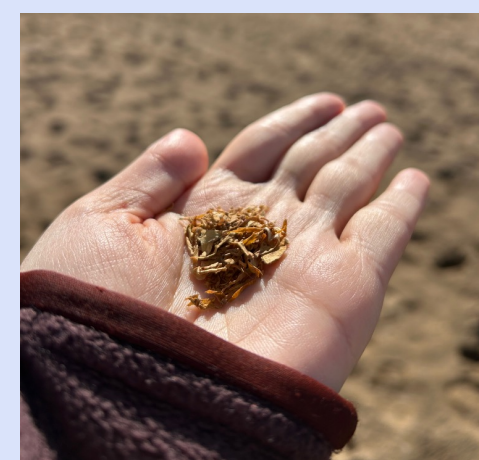
馬との触れ合い

神聖な植物タバコを供えた後、馬に自身が抱える問題について解決に導いてくれるようお願いする。馬の方から近づくまで待つ

エンディングセレモニー

馬に教えてもらったことやセラピーで感じたこと、身体の状態をシェア

神聖な植物タバコ→



ソーシャルワーカーであるアニシナベ女性の言葉

「**馬が癒しの提供者、教師**であり、私は馬の世話人、セラピーのファシリテーター、教育者」
「馬たちは**私たちを助けるためにこの土地に来てくれた**／感謝と敬意の気持ちを持つことが大切」
「馬の精神とつながり、**一対一の対話によって助けをお願いすることで、馬から教えてもらう**」

先住民を癒す馬

馬を世話する先住民

共通の歴史的背景と文化的なアイデンティティ、
先住民の方法によるセラピープログラム

ヒーラー・教師



お互いをケア

関係の再生
癒しと回復へ



世話人
ファシリテーター

セラピーや世話を通じた
コミュニケーションにより
個人・集団的な回復が生まれる

先住民文化を基盤とする動物保護、ヘルスケアシステムの活発化と応用に貢献

本研究はWiikwemkoong Unceded Territoryのアニシナベの皆様のご協力により実現しました。伝統的な土地Anishinaabe Akiと馬たち、温かく受け入れてくださった地域の皆様のご厚意に、深く感謝と敬意を表します。Chi-Miigwetch.